

蝦夷風俗彙纂前編

七

ヲ 6

460

7

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

門 36
號 460
卷 187

蝦夷風俗彙纂前編卷七目次

○言語

草木

勸詞

助語

熟語

和歌 夷言子譯以

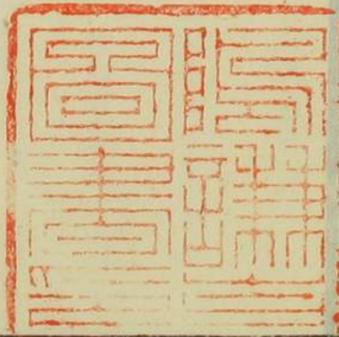
祝辭

風の稱

アイノ 残カイナト呼ふ事

目次

卷七



蝦夷語義解

蝦夷語差別

蝦夷轉語の事

蝦夷地名語解の事

蝦夷風俗彙纂前編卷七目次終

蝦夷風俗彙纂前編卷七

○言語

○草木 附米酒糠

唐檜

シユンク

あしさいぎ

フツプ

柳

シユク

まゆみ

ウケゾニカシユラニコンケ

竹

トツプ

たも

ビンニ

蘗

シケレベニ

椀

タツニシイタツクイタツ

屋根椀

カバタツ

笹

イキダラフツタツフラス

草木

卷七

山梨

セタリ

青だち秦皮

イワニ

萩

シンゲフ

櫛

ベロニ

皮くるみササチベレケフ

山桐

アユシニ

水木

トコロシニウツカンニ

えんの木 ケ子○ヤンケ子○多ケ子

ニシコツ○ヒ子

蒲萄

ハツ

棋楠樹

タルマニラルマニ

赤だち

チキシヤニ

胡桃

子シヨ。實ハ○エヌハ○ニヌム

蒿謀

ウツシ

槐

チクベニトクベニ

板屋

トベニ

落葉松

グイ

子さびオフシヤニランユハ

朴

イカユフニ○フシニ

桑

テシマニ

いぶ木

オタシケベラシヤリ

ぶあ

ピラニ

五葉松

チカフ。○イ子ケレニ

櫻

ニトカリシバニ

檜葉

ニイマサチクニ

志あ

コベレケフ

梓せん

イワキシニ

山椒

カンチカニ

かこぎ

チケシラニ

あひやう

アツニ

たらぶ

トケアユシニ

柏

ゴムニ

椴

ト、ロツフ。白老言イヒタフ 斜里言

桂

ランコ

こぶし玉蘭

マウクシニ

七釜土

セイカハラ。キエルフ子リ

ぞろ

ヤイニ

いのまろ柳

トイシユノ

栗

ヤム

あさぶぶキエルツフ子○セイカハカ

鬼箭 <small>つぎ</small>	ラブシニ	梓 <small>シ</small> 似て實あり	キ、ニニ
まや <small>シ</small> 此如く大ある	フニカウ	庭 <small>シ</small> とある	オシハラニ
人 <small>シ</small> ころむし	キン子ニ	濱梨	マウ
ひき櫻	オフケニ。オマウタシニ	梓 <small>シ</small> 似て實赤し	チカツポセタニ
根	シンシツ	標	ニキタイ
朽木	ニトム、ムニチクシ	割 <small>シ</small> る薪	チベレハニ。ヘレハニ
丸太	ニイツキ。ムツカ子ニ	花	エブイ
實	エブイケ	凋 <small>シ</small> む	シユン。ウコチウフケ
散 <small>ル</small>	チャハウケ	奎目	アヤ
朽木の皮 <small>シ</small> 如き	ニフカイ	蔦類ハ	ブンカラ。ブンガリ

白藤 <small>ニキヤウ</small>	クツチ	扶桑木 <small>ニルイ</small>	ニルイ
脂	ウングツク	琥珀	ル、ウングツク
流水	モンチクニ	枝	ニテケ
幹 <small>みき</small>	ニ子トバ	葉	ハム
繁茂 <small>シ</small> はる	トイアシ	藪	マウトイ
茸	カルシ。カツバラ	款冬 <small>ふき</small>	コルコニ
款冬 <small>トウ</small> の臺	マカヨ	いけ <small>シ</small>	ペヌプ
福壽草	クナウ。クマウボー	附子	セタシユルク
烏頭 <small>ウ</small>	シヨシノシユルク	苳參	チコテル。モシカルイベ
笹 <small>シ</small> くろ	ニマツコツク	獨活	チマキナ。セウ。イチヤリキナ

まざび	キセリ。チ	蕨	トハ。マキナ
紫薇	シヨロマ	杜若	シタウ
蒲	シキナ	葛	オイカラ
こまゆ <small>地狀子</small>	イチヤリキナ。イマボ	つばぶき	オイナマツ
木賊	チユフク	葭	シヤリキ
蓬	ノヤ。メヤ。チクルベ	川原蓬	レタルノヤ
たんろ	イ子ムニ	くまたい	ヘク。ツ
太藺	オフ子キナ	ふら	シキキナ。キナレユ
濱邊 <small>ま</small> の如く宿根	ムリ	あき <small>ま</small> の如く實あり	ウツバキナ
ま <small>ま</small>	ウンチヤキナ	虎杖	シツクツ。イコクツ

三七の葉 <small>ま</small> の如く	オルムクツ。ワツカクツ	長芋	コサ。オルコノイ。ベ。チウリマ
いび <small>野えんどう</small>	メナシヤル	澤瀉	トカラフ
糸 <small>ま</small> の如く草	モセ。パイ。カパイ	蓼	ベカンベ
河骨	カバイ	姥百合	ツレフ
延胡索	トマ	濱百合	イマキバル
黒百合	ハル。アレ。コル。シラコル	姫百合	イマキバル。ニヨカイ
車百合	イマキア子	第	ウム。ヌ。プ。カウシ
あ <small>い</small> の <small>ま</small>	フクサ	天南星	ウラノハ
蔓物 <small>ま</small> の如く豆の如く	イハ。アハ <small>シヨ言</small>	いちお	イマレフレフ
知母の如く根 <small>ま</small> の玉 <small>り</small>	イツフ		

おんこの實 タルマニフレツプ

當歸 ウベウ

あざみ ウエイムニ

まやくビットキ○シユウエ エトモ言

菅をくま イマツコツツ

川芎 オラツプ

あぐも クツチ

桔梗 ムケカシ

葱んどう 此如くハシクタラ

粟 ムジロ○シプシケ○キテナアム

○ムリクン子

麥 メングロ

稗 アイオシアマム○ツナシアマムビヤバ

餅粟 リテンアマム

からし タラヌフ

作る トイカル

耕を トイタ

種 ビー○ビエ

枯を草 オイムニ○マウニカラフ○アフニフレツプ○ニホツケフ

○マクプ○シタカマロ○イシヨキナ○ムク○カタム

甘遂此如く實赤 イカツカ○クン子フレツプ○チリムツ○エヌミタ

ン子○ボ、○アツツリ○アツケベチ○ハラテツ○シンクツ

苔の實 イツキマイ、 蛇いちご ブンキカマフレツプ

龍膽の如く實赤 イマウレ 唐本言 實赤く イチチヤル

山梨此如く イモチ、○ウエンニフレツプ○フルカマイ○イボフ

ケレツプ○フツホクシハル○オロムツクツ○ウラコノイケ○コサ 長芋歟

菜物 シタシケツプ○ウツシムニ○イタキラ

ひるも トキナ 管 ヒラレ子キナ

管子似て細し リテンムニ○チセ子ムニ○キイ

防風子似 ウライバウシ

三陵子似 ホフケキナ 擇捉_よて衣_よ作る

キツピ[。]ケマコシ子カム[。]ヌミ[。]ツベ

チランベシテ[。]シリホシ[。]トノ

ヤケ[。]ヌンバシヤケ

粕 シラリ

糠 アヤ、ムル

○勸詞

大 ポロ

善 ヒルカ

野菊子似 シヤモノ

米 アمام[。]フアمام[。]チモクモ

酒 シヤケ[。]カモイチケンベ[。]

濁酒 ヤ、シヤケ[。]シラリコシ

もろみ シラリコル

餅 シツト

小 ポン

悪 ウエシ

色

増る 加等注浸 イーカウ[。]イーカシユ

減る 貶減 シユニヤ[。]イラボツカリ[。]ニン

穩^{オダヤ}り シンヌモ

評 メトア[。]シンヌモ

初め アシンノ

竭^{ツキ}る オキタ[。]アノキタ

渴[。]く シツトム[。]シヤツテク

赤し フーレ

黒し クン子

艶

イロ

静謐 シンラツチ[。]シンヌモ

新し アシレ

畢^{ナカ}る オケシ

中 ツムケ

腐[。]る ホリセ

白し レタル[。]テタル

黄色 シウニシ

緑り	テウニンノ青シエイ	紫	イカラリ
光り	ヘリアツ	美し	イラマシユレ
結構	イランマカ、	種々	ウシヤイ子
濡る	テイ子	干る	シヤツテ
清し	ラク	濁る	オボイノスケノヌツキ
奇麗	アツカン子ノアシカン子	穢 <small>キヌナ</small> い	イチヤケレ
曲る	ヘウケノレウケ	直し	ツクヌノオーベカ
傾く	ホラツ	破 <small>ヤ</small> る	コ子ノヤリ
浅	オハク	深	オホー
陰	オシマケ	稀れ	ケミアン

夥し	ラホツ子アン	湧く	ホフ
消る	ニン	益	ラメトクノラカアン
損	シヨノカノシヨノキ	真直く	オクルケ
打違ひ	ウタシヤレ	大き	ホロカシユ
小さき	ポレルイ	輕薄	ヤ、ンノコシ子
重疊	コシ子ノパセ	前へ	オシニ
後ろへ	オシカマ	上邊	カシケ
底	ラウタ	珍らし	シンヤクノイセンラムテ
遙	ホマルノボノホマンノ	ふやなる	カプシヤ
傍	アツテム	熱い	セ、ク

滑い	ツワル	太い	ポロロイ
細い	ア子	一	シ子ツプ
二	ツツプ	三	レツプ
四	イ子ツプ	五	アシキ子ツプ○アシキ子
六	イワンベ○イワン	七	アルワンベ○アルワン
八	ツベシヤンベ○ツベシ	九	シ子ベシヤンベ○シ子ベシ
十	ワンベ○ワナキ	二十	ホツ
十一	シ子ツプイカシマワンベ	十二	ツツプイカシマワンベ
十三	レツプイカシマワンベ	十四	イ子ツプイカシマワンベ
十五	アシキ子イカシマワンベ	十六	イワンイカシマワンベ

十七	アルワシイカシマワンベ	十八	ツベシヤンイカシマワンベ
十九	シ子ベシイカシマワンベ	三十	ワンベイツボツ
四十	ツボツ	五十	ワンベイレボウ
六十	レボツ	七十	ワンベイカシマレボツ
八十	イ子ホツ	九十	ワンベイカシマイ子ホツ
百	アシキ子ホツ	二百	シ子ワ子ホツ
一人半	ホシ子ニ	二人	シ子ホツトニ
三人	レトニ	九人	シ子ニハイタワンニ
十人	ワンニ	連	テシ
束	シケ	上	テツ。バケ

中	ノシケ	下	テツケシ
長	タン子	短	タキ子
壹尋	シ子テム	貳尋	ツテム
貳尋半	ホントモイカシマツテム	五寸	シ子オ子人指よてまゝぎ也
六寸	シヲウ 中同斷	重し	ハセ
輕し	コシ子	一度	シ子シユイ○アリシユイ
二度	ツシユイ	半分	ホントモ○ヌマヲ○ニマヲ
不殘	子ナイ	方	オシケウンヌ
圓	シカンナツキ○シカリ	厚し	イロン子
薄し	カハル	狭し	フツツ子○チハカラフ

廣し	セフ○チリ○チリウシ	永々	セタツコ○シタツユ
一所	シナシタ	順	オーベカ○オ、フリリキ
逆	オクリキ○ホルカ	去める	リカシ○カウレ
のびる	リケシ○ツク	丈ケ	セリ○トツイ
幅	トモツイ	實	シヨシノ
虚	シユンケ	堅し	ニシラ
和らり	ヘイ子○ハプル	餘所	オヤケタ
側	チヨロホキ○イシヤムタ	浮	ベイカンケ○レン
餘る	イカシマ	不足	ウハイ○ハイタ
名號	レ○シロシ○レム	似	ウユイラム○ウユバ○ユヘライ

真似

マ子シ〇エユカリ

身長ケ

イツケウエ

〇助語

不可

イテケ

不

シヨモ

非

ヘン子

無

インヤム

於

タ

乎

ヤ

依之

クシユ

不能

アイガツフ

從

オロワ

自

イカリ

終

アイ子

必

イカ子ベカ

未

ナ一

干時

イケ

愈

マシキンノ

有る

アン〇アヌ

有てモ

アナツカ

有れど

アンコロカ

有きども

アンコロカイナ

有らふ

アンナンコラ

有時子

アンチキ

有事もある

アンコトマアン

有るふ

アンヘ子

別

シンナイ

早

ツシナシ

同

ウコラチのウ子ノ

宛

ランケ

いさくケ。シタノ。タク、

其後

イマカケ

就夫 ツイシヤマタの子ワアズクニエ

且亦

シヤマタ〇カンナシユイ

事

キマヤヤ

至る

シ一ノ

所へ

オツタ〇オロタ

久

オホ一ノ

外

オヤ

物	ベ	者	プ
皆	オビツタ	又	カンナ
若	イカ	あれど	子ワ子ヤツカ
あぐら	コロカイ	聊り	モ一モク
ふど	ハツクノ	むのり	バテキ
それら	タプ子アソクシユ	孰速	イキヤアソ子コン子ヤツカ
それふど	子エアソコロカ	それまで	オロハツクノ
どうや	コラチ	此どうや	タンコラチ
此	タンオタプ	今	タ子
俄	ニシヤツプ	爲	ウ

いつり	ヘンバラタ	外ふ又	モミマ
其段	子ワアソベ	段々	ウヲホキノ
左様	ケアソナク	ある程	ノコンオウウン
こまりてならぬ	ホカンバ	いたしるる	ルウエ
あとあり	タバソ	筈	グシ
ケ様	エ子カル	いつち	ラマヤウシトコロ
扱	ナキ子	用ふつ	ユワンケ。シシヤク
誰	子ニ	蒙る	カシカムイ又
斯ふ所て	エアソリタプ	僅	ポンベホ
毎度	ヘンバラタリ子イタカイキ	共ふ	イツシン子ノウコイラムノ

態と オモロ、シ 然れば アイ子シリキ

ケ様子云 ダバワシのエ子ハワン 態々 ウカムキリのエロラムノ

此間 オフナクオナフンテ 喻ふ タフ子シリキのアエマノ

假令バ テラロナーガン西地言 自ら^{ミツカ} ヤイ○ヤヨコテ

假よ ヤイ 未既 チ、ホ○ナニ○ナ又ニコ

ちよつと ヤイルカイ あるそふあ アナカイウ

此物ウ タンベヘー 此物ホ タンベ

此物をバ^{此物よて同} タンベアニ 此物ウハ タンベヘ子

此物なれども タンベ子ヤツカ 此物の通り タンベコラチ

此物でも タンベヤツカ 此物ごけふ タンベ子ナ

此物許り タンベバテキ 此物なれども タンベバツクノ

此物の外も タンベモシヤ 此物より タンベカリ○タンベラロハ

方へ カタ 拜面し祝はる辭 ヤンカラ

フテ^{西地言} イシヨロレ○イカタイ^{東地言}

當座し祝はる辭 ヤイコユルシカレ

此間 テタイ 透間 キルウケ○ビルツル

さつむり ケリ、、 める、モシリツチノオモイラキ、

ひつくり返る 又おられる トヨグシ

斯ふなるそふじや ヤアカイワ○エ子、ヤカイワ

任せ レンカイ子 一圓ふ ヒシカクタ

如く 子ノアン

○熟語

たなごの在所無事でござるり。 イコロコタンシリモノシリアンナ。
 先達て沖へ出て。盟納臍尋ぐ。 オフナキアツイカタレハウ子ウイミタン。
 船で送れ。其賃み米ニ俵遣るであらふ。 チフアニルヤニイタシヤ
 ブンマツタラアツテナニコシナ。 一昨日此所オトヒに。 鮒の群來る。 ホシ
 ケヲヌマニタンコタンタヘロキアツワ。 其側の川ハ。 釧路此川程有るり。
 エトコタアンベツ子ワナニクシユリウンベウハツクノアナ。 左様でござるいんづきゆる通りじや。 ケアンナクハウキアニコラチアン。
 一所集つて。 番を志やま。 シナニタウエカリワブンキ子レヤン。

東蝦夷の者ども。此度強く取合が出來る。 メナシウシガルタ
 子ボユ。アケアシユルアニイレカアチ。 高聲する。 彼の人であらふ。 シ
 ヤカンコルアハネシシヤム子ナニコロ。 私の家ハ什物取られて一向ない。
 チコツチセアナキ子イコリエアシンケワヲハリシヤム。 樹のようになつてだまいてなる。
 爰此番人ハ名高い償取ツキをふじや。 テウンシシヤムアナキ子ア
 シユルアシルツツケアシカイ子ナ。 跡めら着るるも依つて。 呼
 ニイルウエグニアニワツシタノヲカイ。 ぬとしておよい。 オシシヒバクシユニヨモヲミヤガシヤツカヒリカナ。
 此崎よ從て行バ。 遂よどのような所ぞ。 タニイツイイカリハイア
 シアイコ子子コナコタンヤナ。 上の思召で。 舟を下され。

カムイユワンケチフヤンケナ。 久しく御目よか、らぬ。 オ
 ホンノシヨモウヌカラ。 二十宛一束よかぞふまじバ。三
 十五束ある。 ホツランケシエシケアノヒシケワアシキイカシマシ子ワ子ホツアン
 其様な行跡をよいとあふと過料出ま様おほらふ エ
 子カッピリカアライラマシテツミイチコレナンゴナ
 よ返しからふとおもふ。 ピリカグニクラムアン
 此こし御待たされ着しはをさる。 ポンノヲシテチミアンヘアヤ
 待てをりおしとほぐよ御入りおされ。 テイレアングシタフオアランケヤ
 御久去ろごぎる甥同様お入。 ヤンガラポテシヨシノカイ
 コラキ子グルホ子ノアンホ、一盃のみ、いよよいあざ

らし其代よ貸せ。 子ハイクルニヨイクシツカリシリ子ノヨトセ
 何よ荷物を出るよは依て糶一俵借りさ。 子フチヨキヘ子シヤンケナ
 ニコロクニユカミタチ子タラシヨコル。 かくる所よ馴染の東蝦夷地
 此もの、到来船をつけさ。 ユアミツタスウネトモハウシメ
 ナシウシグルシレバワチフヤプテ。 何迷の衆をまけてるからぬ
 イキヤウタレニアフカラシナ。 金箔残置と盃を拜領しと
 コカ子ワツカオマレアンツ、キウシケライアトハロウシ
 手つかりりにして追々行け。 ウテケアンバノウヒ、ハイヤシ
 何よ是るとして討論をさる。 子プカルクセヤイバタシヤレ
 云々と云て謝禮をいふ。 トコロイバリウシケシケ

居眠可出るよ口利はな

モコロイコツテツウハタシ

存此外幅が廣い

ラムカンバレチリウシ

掛合がひどいで云もぬら恐しい

ウエハケコシ子ワツカリケラムナリ

無用の事をいふまいぞ

イテケヤイハロウニ

能く繩よて結ぶ

イランマカ、ノハリカアニユフー

殿様より被仰出候旨を。此方申渡時よ能承るべし。松前領主の上。日本地一圓よ大名二百七十其の次よ旗本十万。御指圖なさる。江戸表より蝦夷地見分として。此殿様御越被成。此節當地御着有之依之。此酒手宛

此処て下さる。筆恐。拜領可致ハ至テ。以頭ト申奉。味トノヲロワシヤシイタクイ子アニ。以頭攻ヲチ時。ヒリカノイヌリヤニ。マトマイム。以頭カムイイキ。リカシケ。シヤモロンピシカンムシリカムイワシ。ニイ子ホツイカシヤシ子ワ子ホツ。ツタシノカム。イウタレワニ。シ子ワ子ホツ。テケ子コル。エシ。トイウシムシリカムイオロワ。アイソコタ。ヌカ。ンテク。ユ。タシ。以頭マナシ。テ。以頭子。ハシ。コタ。ンシレハア。シルウエ。タ。バ。ク。シ。ユ。タ。シ。ト。ノ。外。ア。ン。ノ。イ。チ。コ。レ。ア。ニ。ナ。ヤ。イ。カ。タ。ノ。エ。ラ。イ。メ。キ。ア。ニ。

金山方の者ども利尻嶋の山へ登り。見分致候
様申渡差遣候處。蝦夷ども申聞候譯

上より被仰付乍恐承知仕候。當嶋周廻見分被成候ハ。
至て宜敷候得共。當嶋の山へ登り候儀者心配仕候古
來先祖達より申傳ふハ。古來の蝦夷一人此嶽此上へ
登り罷歸り候。此嶽の上へ登り候てハ甚恐しき事
有之候。依て差支候儀も出來候而ハ如何仕可然候哉。
私共一同恐入候より。登り不被成様仕度。江戸の衆
此嶽の上まで登り候と申儀ハ。至て心配御座候と

申越江戸の衆方へ。此段申述可被下候

カモイヲロシへ。ヤイカタノクヌ。ルイタバ。タバ
ンモシリ。オイカリノ。イヌカル。ヤツカイキ。シノヒ
リカ。コロカキ。タバ。ンモシリ。カシケリキン。タンベ
ニシヨヤフクシユ。フシコイカシオロワノ。イイタ
キウエウシノ。イ子アイ子ンキカル。アイノシ子ニ
ン。タバ。ンノボリ。カシケタリキン。オロハノ。ホシヒ
リシリ。タンベ子クシユ。タンノボリカシケタ。リキ
ングニ。シノヤイカタノアンヘ子リシユ。オヤモク
テ。シリキヘツク子アキニ。子コナアカルツ子。ナ

ニコロヤ。ウタレヲビツタノボ。ヤイカタアンクシ
ユ。シヨモリキンノ。アンルイ子アワ。エントニシパ。
タンノボリヲツタリキンセコロ。イタキ。タンベシ
ノニシヨマア。アンルイ子リレユ。エントニシハラ
レニ。タンベイチヌレウニコレヤ

○和歌を蝦夷言に譯す

つら〜とよいそて過り身のをとおひきぬる候 ありて
コムノセ。ツシテクラマニ。子トハケヘ。ラムハイタアノ。ヌベタバングニ
見せそゆふ〜まのあまの袖〜ぬれ〜ぬれ〜色はか〜
アヌカレテツポニモシリグルツチャアニヘ。テイ子カシユウニヤツムヘニ子ニシ

日暮くハ此刷上。残たつ縁。見せむきハ水。小は花。此香を何
チユフリイワタハ。ンベナケタイシタニナ。テケアニベタワエブイフラアン

○祝辭

姪人イカラク子クル何云子フイタウニ宴中トノト
シリカ慮ワイヌンス爲焉クケナニコラ洋立神レベ
ツツカムン先祖幣束イカシイナウニツ持詣所コバ
イヲツタ神前カムイコツチャウ祝身イハナウクペ
右手ニモンテケワ先祖幣イカンナウニ捧アツテカ
ニ左手ハリキテケワ酒桶シヤケシントコ捧アツテ
カン洋立神レヘロツカムイ靈眼傍カムイシキシヤ

マ着所シレバヲツタ蝦夷説アイノオロシベ神歌カ
ムイヲイナニ諷イウコヤイラフ如此則キイワ子ヤ
キ子洋立神レベコツカムイ嘆息其語イエヘツセチ
ユ神扇カムイアヲニケ胸イシレラツトム叨所シタ
イキヲツタ扇勢アンキマウエ善嵐ピリカタシコン
子此住居タハンムシロ、雲決チニシコユブ授ア子
ガラカリ如此則キワ子ヤキ子吾姪屬クカルクウタ
レ無難マワシノ、ボ居オカイナンコンナ其段セコ
ツタワ子祈言イノシノイタリ有アン十蝦夷方言藻汐草

○風の稱

北	子	阿以の風	アツナラレラ
	丑	阿志也風	オチウフカンベ
東	寅	志也風	ラマト
	卯	東風	ヤませメナシ
	辰	いなさ風	イカメナシ
	巳	いあさ南風	ノテナイ
南	午	みあき風	ベケレビカタ
	未	くぐり風	アシノヒカタ
	申	ひりさ風	ヒカタ
西	酉	ふー風	シユムレフ

風の稱

戌 一たむ風 オイルニ
亥 たむ風 オベトムシ

但擇捉嶋へ渡る舟路子常子ハ根室此納紗布岬と。水晶嶋との海峡をゆきゆるふ。くぐりやませとて。擇捉嶋へ此順風とて。秋深くなれば多く出し風のふくも此なまば。東海を乗かこく。やくも出れば大洋へ押流さる。故多くを洞内へ圍ふおとなる。東蝦夷夜話

○アイノ残カイナトと呼ふ事

北蝦夷にて。蝦夷人をカイナトと呼し。天鹽の山中

ユアニノホリ邊みてハ。同じくカイナトと呼けり。尤夷地女子残カイナトと呼事あり。是を聞しや老人の曰。カイトと此國子産れし者此事。ナトと貴人を指て。且那等と云て尊敬の言なりし。何れの時より和入此言子馴きて。アイノト呼易た様子成り。然れ共深山の村々ハ。未だ和語が混ぜざる故。カイナト呼よし話たり。右にて考る。此國をカイト云ん。まはナ残尊敬の意とは。如何も内地にて有しことなり。又カイトの事ハ夷人自呼其國曰加伊。加伊蓋其地名。其地名加伊。其人鬚長故用蝦夷字。其實非唯取蝦而

カイナト事

名之也。參考熟田 縁起頭書其夷人先達て官の前子進むる時。腰をかかめ足を引出す。手杖曳連其様殆ど蝦のおとし。按るふ此禮狀古今違をざる成べし。古昔唐山子行て人子見えし時子如此せしよや。彼國蝦夷此字を製して稱呼也。我國えとしと稱せしも。又蝦祖父の和訓子て。後ふえぞと稱するハ其略ならん。蝦夷余此國子入奇觀老人の話を聞。兩説併せ考ついらふも。とおもひ當りぬ。天鹽日記

夷人自ら蝦夷を稱してアイ人といふ。蝦夷拾遺及び本居宣長ら古事記傳の説によつて考るよ。アイとカ

いと音相近し。古ハ武内宿禰始めて此地子巡察の時。土人此目をカイといひしを聞て。蝦夷此文字を用ひられしを其後子至り。博士等蝦夷みエミシの詞を施せしよより。後世おと轉じてミ我中略し。シをツよかへエゾ。といひ習をせしも此ならむの蝦夷舊聞

○蝦夷語義解

夕張の物識る老土人の話此中子。イニチシラフハララモキウタシキウタ正月二月三月四月五月六月七月八月九月十月十二月。其義イノミチユツフとは神カモイ祈月と云義なり。此月八年此始なれば年中の事を神子祈る月なれむなり。カモイを神なりノ

ミを乞ふて祈る義。則日本紀神代卷下枝懸青和幣白和幣相與致其祈禱焉。まゝ萬葉集三卷天地之神乞禱ふと見え。又叩頭

乃美ハ祈也。禱謝之義。又云奴加豆久額衝也。倭名鈔。叩頭虫和名沼加豆木無之。周禮鄭註。頓首如今叩頭之類。首叩地之通稱。

とも見え。ハフラフと云。此月より魚も川も上り。鳥も音残立る義あり。大の月をポロ。小の月をポンチ云フ。閏月をイカシユマチユフ也云。まゝ日廿數也。朔日二日三日四日五日六日七日八日九日十日十一日

二十日廿一日晦日。十と二十と合てよび。十一と一と十と残逆も讀合するなり。又錢の算も此如く。卅一文とは一を先もし次も卅と讀なり。四十も二ツ二十を合する故もトホツと云。トも二ツホツは二十あり。五十は十と四十と合せ。六十は三ツ二十を合せ。七十は十と六十と合せ。八十は四ツ二十と合せ。九十は十と四ツ二十を合せ。百をばまゝ五ツ二十と云。其上二百三百等只言葉こそ異。少も内地の數も異る事なし。往昔も總ての事備をりし。人口此減るも隨て風俗も次第も變るるとぞ。余試も秋の彼岸を問ふ

アしよ。八月二日三日頃と云し。果してその如くならし。夕張日誌

○蝦夷語差別の事

蝦夷國の言葉は種々辨へがさき事有。先此國よて出
來るものゝかくべつふして。外國より渡り來るもの
も。夫と共に。此名も來る事有り。既日本國より渡
るもの多き中にも。日本國の名を用る事を稀にして。
蝦夷國よてさおく。此名を流けよぶ事有。言葉も又日
本の言葉を聞かやまりて。其通りふ唱へ來り。今日本
人も彼地よて。其通りふ任せて通用なる言葉有り。

其一 二 戎 阿 げ て い も ぶ

荷物の事を

キンカイといふ

昔松前此商人蝦夷國往來する。その着替を荷物と
して。蝦夷人よ脊負せて通る。是をきかへといふを聞
た。ぐへて。今キンカイといふ。夫よ任せて松前此人も
則きんかひといふて通用をなす。又女の事をメノコ
といふ。ハ蝦夷國此言葉なり。志らるを松前此通辨蝦
夷地よ出張して。年を重祿馴志しむ故。誰り日本
風の男衆女衆といふ意よて。蝦夷の女をメノコ衆と
いふもの有り。それ戎聞た。ぐへて。メノコスといふ。

今を彼メノコスといふ事。十人より三四人の此言葉を
是と心得たるものなり。又老るる蝦夷人をオトナと
いふ。その文字をかふるものなり。是松前より法華た
る名なるり。又自然の名称となるものなり。おろ落事
をオチエといふも日本の言葉に轉じたるものなり。
見聞誌

○蝦夷轉語の事

天 クキメ 地 トイ 東 メナシ 西 シユム
南 ヒカラ 北 マツトウ 山 キシタ 海 アツイ
陸 ルウ 道 ルヘ 沖 ルツ 磯 シウ

瀧 シヤウ

泊 トマリ

所 コタン タンと云ハ轉語なり。トコロといふハ

日本語なり

谷 ナイ 澤の事を云。總て昇き處をいふ。マヘ

マイトイライ モイなど云ハナイの轉語なり

嶺 ノボリ 峠といふ字残ノボリと云ハ和字なり。

山此事をオホノボリと云。ノボリレノホツと云ハ轉
語なり

嶋 モシリ 州の字を用ひてもよし。モシシリチリ

ムシリミセなどいふも轉語なり

川 ベツ 河のことを云。諸越此書に有る水と云字ハ川の事なり。ベチベシベヒツビなどいふを轉語なり

沼 トフ 此書にハ本池入江などを總てトフといへども。沼を池と同じく人力を以て掘たるを云。此書にトフと有るを入江水海などを云。左に有るらび鹽入の所。我江といひ。山に有る自然の流水を溪といひ。平地に有る自然に大水を瀦と云ひ。山平地と云ふ澤などといふ。此字をサキと云字に用ひ來れども當

崎

ミサキ

此字をサキと云字に用ひ來れども當

らび

此他ウシといふ言ハ多味を云義にて。イシユシを轉語なり。シマを石といふ言にて。シヤを轉語なり。ト口何といふ言ハ余志らぬ。トコトコを轉語なり。東蝦夷輿地志

○蝦夷地名解の事

大松前

夷言オマツナイなり。オと云オカムイのオにて在ると云事。マツと云女と云事。ナイと云澤亦ハ濱杯と云事にて。婦人の在り澤と譯也。按るに當時神明社の際し有る澤を。バツコ澤といふも此事なるなり

地名解

小松前

夷言。ポン。マツ。ナイ。なり。ポン。と。云。小。さい。と。云。事。マツ。ナイ。前。の。如。く。澤。と。い。ふ。事。よ。て。澤。と。譯。也。

及部

夷語。オ。ウ。ン。ベ。なり。オ。と。云。在。る。と。云。事。ユ。と。ハ。温。泉。の。事。ウ。ン。と。ハ。生。虫。と。い。ふ。事。ベ。と。ハ。所。と。云。事。よ。て。湯。此。阿。る。處。と。譯。也。

吉岡

此。所。和。解。不。知。恐。ら。く。ハ。和。言。な。り。福。嶋。

夷人。む。あ。し。之。を。オ。リ。ヤ。ナ。イ。と。い。ひ。し。ら。ど。も。唱。違。ひ。て。全。く。ホ。リ。カ。ナ。イ。なり。カ。と。云。逆。也。ハ。イ。と。澤。と。云。事。よ。て。逆。さ。を。と。譯。也。此。川。四。丁。を。瀬。順。逆。し。て。流。れ。る。故。に。此。名。有。何。世。よ。り。和。人。福。島。と。號。た。る。べ。し。

知内

夷語。ニ。リ。オ。チ。なり。ニ。リ。と。ハ。地。オ。チ。と。濱。間。と。云。事。よ。て。地。此。打。圍。た。る。濱。間。と。云。事。あ。る。べ。し。未。詳。

喜古内

夷語。リ。コ。ナイ。なり。リ。コ。と。高。く。上。る。ナ。イ。と。澤。と。い。ふ。事。よ。て。高。く。上。る。澤。と。譯。也。

札狩 夷語ミラツブカリあり。ミラリツカリ此略言なり。ミラリと云磯ツカリとハ前むと云事よて磯の端と譯也

泉澤

夷語イツミシヤと唱ふれども不詳

當別

夷語トウウニベツなり。トヲ云沼。ウニ有犬ハ入る杯と云事。ベツ云川此事よて沼ある川といふ義なり
茂邊地

夷言ムハツク。又モハツなるべ也。云塞る。ベツ云川。又モ云静と云事ふれども。按るよ此川折々水口塞る故。此名あるべし

戸切地 夷語ヘケリベツなり。ヘケリ云明るき澗。ベツ云川よて。清き川と譯也。此川平日奇麗なる故也。此名ある

宿野邊

夷語スクノヘと云唱違よて。全くシユフノツヘなり。シユフとハ鮭。ノツヘと云居る。又生ぎるなど云事。ベツハ川よて。鮭魚ある川と譯也

七重トヨヒナアナイなり。ナア冬いくつをまゝハ亦杯云事。
ナイ冬澤濱杯と云事。よて幾つを澤ありと譯也。此所
澤數ヶ所ある故。よ此名あり

箱館

夷語ウニヨケニなり。ウニヨ冬。ウニヨ口此略言よ
て。入輪と云事。ケシ冬末端杯と云事。よて。入輪此端と
譯也。不詳トヨヒなり。シヤンベなり。シリ冬地。シヤンハ下る。ベ也
又尻澤邊トヨヒ云事。ハシヤンベなり。シリ冬地。シヤンハ下る。ベ也
夷語ニリシヤンベなり。シリ冬地。シヤンハ下る。ベ也

冬所トヨヒいふ事。よて。出崎と譯也

湯の川

此所温泉ある故。よ。和人如此號るよしトヨヒ又ハ此所

戸井

夷語トヨイなり。トイヲイの略言。トイ冬土。ヲイ冬何
ると云事。喰土あるよよ以て號し哉

尻岸内

夷語ニリキシラリなり。シリキ冬模様。シラリ冬磯よ
て。模様の有磯と譯也

惠山

地名解

夷語エシヤケなり。則高山。又も石山など云事。よて。高山有る故。此名あるなり。

概法華

夷語ツウ、ボキなるべし。ツウ、冬崎々と云事。ボキ冬蔭よて。崎々此蔭と譯也。此所崎の蔭に村有る依て號し。

臼尻

夷語ウセイシリなり。ウセイ冬風。シリ冬嶋。又冬地杯と云事。よて。風此島と譯也。

鹿部

夷語ニカウニベなり。則負て居ると譯也。

砂原

夷語シヤラなり。晴速ると譯也。

森

夷人オニウシといふ。オ冬在る。ニ冬樹木此總稱なり。ウシ冬生也。又ハ群る杯よて。樹木此繁りたる處と譯也。後ハ和人の森と號るよし。

鷲の木

此所ハ鷲此止る樹木有る故。和人此名を號るよし。

茅部

地名解

夷語カヤウシベなり。カヤを帆。ウシを生ずる。ベを所
よて。帆形此阿る所と譯す。

落部オトシベ

夷語オテシベなり。オを在る。テシを梁。ベを所よて。梁
の有所と譯す。

野田追ノダオヒ

夷語ヌタイなり。ヌを焼る。タイハ野合。ヌを山此臺杯
此事よて。燒野と譯す。

山越内

夷語ヤムクシナイなり。ヤムを栗。クシを通路と譯す。

云事。ナイを澤よて。栗此阿る澤を通路と譯す。又一
説。冷水流る濱と譯すといへり。

遊樂部

夷語イウラフなり。イウを温泉。ラフを下る。ヌを落る
杯よて。湯の落ると譯す。此邊温泉數ヶ所有て。川へ落
る故。此名阿るべし。

長万部

夷語オシヤマンベなり。オを在る。シヤマンベを鯨よ
て。鯨居る所と譯す。又此山々消殘りの雪。鯨此形狀好
る故。此名阿ると云。

禮文花

夷語レフンケフなり。レフニを沖へ出。るケフを崩達
と云事よて。則崩たる出崎と譯し

虻田

夷語アフタなり。アフを釣針。タを製作。又を取る杯と
いふ事よて。釣針を拵ると云義なり

有珠

夷語ウシヨロなり。則入輪と譯す

オサルベツ

夷語オシヤルベツなり。オを在る。シヤルを濕澤の事。

ベツとを川の事よて。濕澤此ある川と譯す。此邊濕澤

多くあるゆゑ也。此名あり。大川あり。大川あり。

千舞別

本名オヤエベツなり。夷語オヤを自分焼。エを食とる。
ベツを川よて。自分食物を焼川と譯す。河よて夷人諸

魚焼。食糧と云る故此名有

室蘭

夷語モルランなり。モを小い。又を静杯と云事。ルを道。
ランを。下るよて。小い道残下ると譯す。此所千マエベ
ツよを僅此山道あり。坂を上り下るといふ義なり

繪鞆

夷語エンルニなり。則砂又を尖此出たる崎といふ事なり。

鷺別

夷語昔時カバチリベツなる哉。後世和人と語夷言を取交へ。ワシベツと唱ふ。カバチリを鷺。ベツを川よて。鷺川と譯す。未詳。

幌別

夷語ホロベツなり。ホロを大。ベツを川よて。大川と譯す。

垂舞

夷語オタルマイ此略言なるべし。オタルを砂。ルを解。又を常なども云事。マイをオマイ此略言入ると云事よて。砂解て入ると譯す。此處火山砂埃噴出し川へ流入る故ある。又を砂此道あると譯す。

勇拂

夷語イウブツなり。イウを温泉。ブツをブツウと云水口といふ義。湯の尻と譯す。此所水上に温泉此ある故に。此名あり。

鷓川

地名解

卷廿

三十一

夷語ムカなり。則奥山の平地なる所子涌水處々子有て。流れ川となるをムカといふ。此川源所々より涌出て。大川となるあり

沙流

夷語シヤルなり。則濕澤と譯り

紋別

夷語モベツなり。モを小さひ又を静。ベツを川よて静なる川と譯す。此河の流甚静なる故子號く人る云

厚別

夷語アツベツなり。アツを群る。又ハ何いし皮の事。ま

こをくかといふ獸此名有。ベツを川よて。群る川と譯す。川尻子鷗群る故子此名有るなり。未詳

新冠

夷語ニカフニカブなり。ニカフニを木。カブを皮なり。何つし皮又を諸木此皮もニカフといふ。此處よて木此皮剥き用る故此名有る

静内

夷語シユツナイなり。シユツを曾祖母。ナイを澤よて。曾祖母の澤と譯り。此邊子昔時夷人此曾祖母なる婦人住居したる故子此名有るよし

地名解

卷廿

三十二

三石

夷語ニツウシなり。則椀ハシにて作る桶ハシ事ハシにて。此ミツ
イシ川の中程ハシ。似たる高岩有る故ハシ。號ハシく
ケリマフ

夷語ケロマブなり。ケロハシを松前ハシ此方言ハシにて。ハイハシと云
貝の名あり。マブハシをオマフの略言ハシにて。居る所ハシと云事
なり。ハイ貝ハシ此居る所ハシと譯ハシは

浦川

夷語オラカなり。禽獸ハシ此腸ハシの事なり。未詳

ホロベツ

夷語ホルベツハシなり。ホルハシを窟ハシ。ベツハシを川ハシにて。窟の川と
譯ハシは。此川上ハシに窟ハシ有る故ハシ。此名有

様似

夷語シヤンマニなるべし。シヤンハシを高山石杯ハシ。マンハシ
オマニと云ハシ。て在るといふ事。高山の有る處と譯ハシは。
又女ハシ此遊きたる處と譯ハシは。と云。未詳

幌泉

夷語ホネレルムなり。ホンハシエレルハシ此略言ハシなり。ホンハシを
小き。エレルハシを出崎砂崎杯ハシの事。此處の崎なりとい
ふなり

エリモ

夷語エルムなり。則鼠此事にて。此處の崎は鼠は状に似たる岩あるよよひて號く

猿留

夷語シヤロ、なり。シヤリオロは略言なり。シヤリオロは濕澤。オロは在ると云事にて。濕澤は有る義

ヒタ、ヌンケ

夷語ヒタ、を解く。ヌンケを撰と云事。未詳

廣尾

夷語ヒロ、なり。崎蔭と云事にて。此處崎は蔭なる故

よ號く

トヨイ

夷語トイオイの略言なり。トイは土。オイは有る處と云事。喰土有る義なり

トウブイ

夷語トウを沼。ブイは穴にて。穴は有る沼と譯す。此沼は内處々よ。深き穴有るよよひて號く

十勝

夷語トヲカツチなり。トウを沼。カツチハ。カを不と云と云事。チを枯れるといふ事。沼の邊り枯連ると譯す。

地名解

卷一

此川上ノ沼有。此邊ニ樹木枯れる故ニ號く

チウクベツ

夷語チウクベツ秋。ヘツニ川。秋川といふ事なり

白糖

夷語シラリカなり。シラリニ汐。イカニ越ス。此川満汐

此節又ニ高波ニ此砌。濱を打越し汐入る故ニ號く

シヨロ

夷語シヨロマウエといふ言葉有。則順風の勢ト譯ス。

此川屈曲ニ難事なく。舟行スるニ順風あり。故ニ號く

オタノシケ

夷語オタニ砂。ノシケニ中程ト云事ニて。濱の真中ト

譯ス。此處釧路ト白糖ニ真中トよつて號く

釧路

夷語クシルなり。クシニ通路。又ニ越るニ杯ル。道ニて

越る道有ると譯ス。此處より東地西別。又ニ西地斜里

一通路ト故ニ號く

昆布盛

夷語コンフモイなり。コンフニ昆布。モイニ小湾トの

事。此灣昆布多きニよリ號く

仙鳳趾

地名解

夷語チエツホヲチなり。チエツホを谷川に居る魚や
まべ杯。都て小魚をエツホといふ。ヲチを居ると云事。
此川小魚多きより號く。仙鳳趾の語出所不詳

厚岸

夷語アツケウシなり。アツを阿つし皮。ケを剥。ウシを
所なり。扱亦此運上屋所を。又シヤアシコタンといふ。
又シヤとを神へ捧る削掛此事。アシとを立ると云事。
コタンとを村。又を里杯。よていなる。残捧る處と譯は
ベカンベウシ
夷語ベカンベを沼菱。ウシを所なり。此所の沼は菱多

く阿るふより號く。此其事なり

霧多布

夷語キイタフなり。キイを茅。タを取。フを所と云事。よ
て茅取所と譯也

納紗布

夷語ノツシヤムなり。ノツを出崎。シヤムを側。よて。此
處崎にかけと云事なり

ノツカマフ

夷語ノツを樹木なき平山の崎此事。マフをカマフ此
略語。よて在る所と云事。此處平山の崎阿る故よ此名

阿_マラウシ
夷語深く入ると譯也。又ラ_ラを腸此事ウシを阿_アるの義なり

知床

夷語シリエトコの略あり。シリを嶋又冬地。エトコとそ末の果此杯ふて島の果と譯也。此處東西蝦夷地の端ふる故に號く

斜里

夷語ニヤリ也。濕澤の地此事なり

夷網走ヲトト大なる野也

夷語アバシリあり。アバを漏る。シリを地ふて漏る所と譯也。此處窟の上より隔たる故に號く

ノトロ

夷語ノツヲロの略言なり。ノツを崎。ヲロを在るふて。此所砂崎の突き出たる故に此名有

常呂

夷語ツウコロなり。ツウを山崎。コロをヲロの略言あり。在ると云事ふて。山崎此在る所といふ

雄別

地名解

夷語ユウベツなり。ユウを温泉。ベツを川。よて。三湯の川と譯す。

シヨコツ

夷語シヨを瀧。コツを濱間。まゝ凹所と云事。よて。濱間よて瀧の流るる故。此名あり。

澤喜

夷語シヤワキなり。則崎の水際。よ有る川。枝シヤワキと云義なり。故の土もと開ス。よ故に。夷愧内。ハシロと云事。よて。此名あり。夷語ホロナイを大なる澤。此義あり。

エシルシ

夷語シリシユなり。シリを地。シユツを蔭。よて。此處崎。よ蔭ある故なり。當處より必。北蝦夷地へ舟出。ソムヤ

宗谷

夷語シヨウヤなり。シヨを海獸の上る磯。此事。ヤを岡。實を此運上屋。此有る所の地名なり。

ナイボウ

夷語ナイを澤。ボウを小兒。よて。ホシといふ事なり。則。小いと云事。よて。此澤。小き所なる故。よ此名有。

オネトマリ

地名解

夷語オネトツなり。オネ在る。ネをネツ此略言よて入
る處といふ事なり。流木の寄る所と譯以

稚咲内

夷語ワツカシヤクを。水好しと云事。ナイを川なり

天鹽

夷語テセウなり。テシウニの略言なるべし。テシを梁。
ウニを在る所と云事なり

ウエベツ。又ウニ杯此略言よて。在る處と云事。
エベツをニタロと云事よて。此川筋二流此處水口一

ツなり。故此名あり

振別

夷語フウレツなり。フウレを赤ひと云事。ツを所と云
義なり

ハボロ

夷語ハブルを。柔らりと云事なり。此處砂地よて柔ら
るよて。人馬歩行の砌。足踏ぬる故よ號く

苦前

夷語トマ、イよて。トマヲマイ此略言なり。トマを延
胡索の事。ヲマイと在る處と云事なり

鬼鹿

夷語昔時をオニネニシカといひしよし。ニシを雲。ホ
モロを貫せると云事よて。いよし一此處へ雷落て雲
の内よす。貫けて上る故に此名ありといふ。扱又オニ
シカを雲の上よ在ると云義なり

留崩

夷語ル、モヲツベなり。ル、を汐。モを静。ヲツを入る。
へを所と云事よて。汐の静よ入る所と譯也。此川へ自
然と汐入る。余程奥まで汐入る故に號く

増毛

本名ホロトマリなり。大なる沼と譯也。マンケを場所
の名目よて。ホロトマリの大と此よし。マニケを場所
オフイ
夷語オフイを焼ると云事よて。昔時此崎へ雷落て焼
しよよつて號く

濱益

本名マシケあり。當時此ホロトマリを本場所とし。其
後濱の一字を加へて。ハマ、シケといふよし。扱マシ
を鷗此名。ケをケイ此略言。成ると云事よて。鷗よなる
と譯也。漁事の節海面よ鷗居る故に號く。又一説アマ

シケなりと。アマ、を穀物。シケを脊負と云事。昔
時此處にて粟稗等。初めて夷人共作る處を以。脊負故
よ號と云

コキンヒル

夷語ホキンヒリなり。則蔭の夥多と云事。此邊崎多く
幾つも蔭有るよよつて號く

厚田

夷語アツタなり。アツを阿つし皮。タを取。又を作る
杯と云事。此運上屋の處ハ。オシヨロアツと云なり。
オシヨロを尻。アツを濱間。又凹むと云事。此處人此尻

の形よ似たるゆゑよ號く

石狩

夷語イシカリなり。イをイシヤムのイよて無と譯す。
シカリを塞るといふ事。此川筋屈曲して塞り見
えざる故よこの名有

小樽

夷語オタを砂。ルを路。ナイを澤と云

手宮

夷語テムヤなり。テムを海草の事。松前の方言コモと
云なり。ヤを岡よて。此處時化此節ハ。コモ多く流連よ

るふよりて號く

高島

本名ツウヤリイシヨなり。ツウヤリ水豹の名。イシヨ磯にて。此磯水豹居る故なり。扱タカシマは此所此沖み。僅の高き島あり故に號く。まゝ此嶋へ鷹來る故に號くと云

祝津

夷語ニクツウルなり。則野韭の名にて。此處韭多く有故に號るなり

忍路

夷語ウニヨロなり。則入輪と云ふ事にて。此處入輪ゆゑに號くと云

古平

夷語フルヒラなり。フルを小き山。ヒラを崩の義にて。此處の山崩れある故に此名有

美國

夷語ビクニなり。ヒクウニの略言なるべし。ビクを小石多と云事なるべし。ウニを在るといふ事にて。此海岸一圓石多く有るふよつて號く

積丹

地名解

卷十

四十二

夷語シヤツコタレなり。シヤツをシヤクと略言。夏と云事。コタンを所の義。此處昔し海鼠鮑都て夏の漁業者此多の里しよよひて號く

古字

夷語フルなまといふ。大鳥石ふて。昔時當所海岸の岩上。鳥の止り居し故。此名有と云

岩内

夷語平ロウナイなり。イワウを硫黄の事あり。此處山々硫黄有故。よ號く

夷語リベツコタレなり。限人誦す云。事あり。此夷人誦す

夷語心坑至る。リも高。ベツを川ふて。此川高山の麓よ

り流逆來る故。よ號く

歌棄

夷語オタシユツなり。オタを砂。シユツを磯との境と云事。よて。此處砂濱と岩崎此境目有るを云

六條間

夷語ログレドトマリなる哉。六條澗と云たるも此。ログレドを大船。トマリを澗。大船の澗有よよつて號く

壽都

地名解

卷七

四十三

夷語シユツツウなり。シユフをシユツキの略言よて。葭の崎と譯す。扱スツ、冬場所の名目。運上屋有る處此地名よて岩崎といふ。岩崎あるが故に和人號けた

島牧

夷語シマユクヲマキなるべし。シマ至るマクを丘。ヲマキをヲマレ此略言よて。入るといふ事なり。此濱深く陸地よ入るゆゑに此名有。又説ふシマとをシユマ此訛ふ石の名。トマキとを焼を云事よて。石は焼れ

スツキ

夷語シユツキなり。則葭此名よて。此處に葭多くある故に此名有る

瀬棚

夷語セタナイなり。セタを犬此名なり

太櫓

夷語ヒトロなり。ビツヲロ此略言。ビツを小石よて。則鮮網此足よける石の名。ヲロを在る處と云事よて。此處に網の足よける岩あるよよて號く

久遠

地名解

夷語グウニツウなるべし。グウ弓此名。ウニを入る。お
こハ在る杯。ツウ冬山崎此事。弓戔置たる崎と譯
也。夷人共熊狐等を狩ふ。野山弓戔張置事をグウウ
ニといふ。扱又當所の名目冬ウニベツと云なり。ウニ
を群る。おこハ繋る生ぶる杯といふ訓なり。ベツ冬川
ふて。此川尻前を鮒多の里しよよめて號く

熊石

夷語クマウニなり。クマ冬魚類を干以納屋此事。ウニ
冬多きなりと。此邊漁業夥敷有しよよめて。此名有る
か

相沼内

夷語アイノヲマナイなり。アイノ冬夷人と云事。ヲマ
ナイ冬いる。又冬居ると云事。近頃迄此澤ふ土人多く
有るよし

蚊柱

夷語ガバリシラリなり。ガバリ冬薄きと云訓ふて。平
磯の事。シラリ冬岩の事。ふて。薄岩と譯以

乙部

夷語オトヲウンへなるべし。オ冬有る。トヲ冬沼。ウン
冬居る。べ冬所と云事。ふて。沼有所といふか

江指

夷語エシヤシなり。洲の尖りて海岸へ出たる崎と云事なり。

鹽吹

此所沖小岩有て。波打付れむ。鯨の汐吹きたる如く見ゆる故ふ。和人此名残付しか。

茂草モダサ

夷語モムチヤなるべし。モムを流連る。チヤを小柴の事ふて。此川尻小柴多く流連あるよし號く。札前

夷語シヤツナイなり。シヤツを干ると云事。ナイを澤ふて。此川平常水の流連あらざるなり。故ふ此名有。

○蝦夷諸嶋地名和解并周回里數大概

小嶋

周回一里東松前并辨天嶋より未北方角ふ有。此處より海路七里程。當島より大嶋迄海路十八里程。此最寄ふ大嶋有る故ふ。此嶋茂小島といふ。扱又此島は續きて柄杓嶋といふ有。周回三里程。

大嶋

周回三里程江良町より午北方角ふ有。當所より海路

八里程。此最寄小島有る故。六の嶋を大島といふ
か

奥尻嶋

周回二十一里程。夏中松前江指在。出稼どもの家數
四軒程有る故。夷語イクシリ。此轉訛なるべし。イク
そイクシタの略言。よて向ふと云事。シリをモシリの
略言なり。

辨天嶋

當所より赤石迄海岸三里程。瀬棚まで海上十一里。此
處和人辨天社建立せり。

焼尻嶋

周回二里半。此島の申北方。天賣と云嶋有。焼尻より
海路午。當所より卯辰の方。筈前なるあり。夷語エハ
ンケモシリの略言なるべし。エハンケを地。又そ島杯
と云事。よて。此所天賣嶋遠くふあり。焼尻を地方より
流連行小嶋とあり。故。此名有。則丘の島と云義なり。

天賣嶋

周回三里程。夷語テウレ。魚。此脊腸と云事なり。何故
此名有るや未詳。

利尻嶋

地名解

周回二十二里程。レフンシリの内。シカネシユマまで。海陸三里程。夷語リイを高山。シリを島と云事なり

水晶嶋

周回一里程。ユルへ海路十九町程。猶又一里餘。南の方へ隔りて。フキロ、と云嶋あり。回六十間程。夷語シイシヨ冬。鳥獸の止る所と云事ふて。鳥獸此多此嶋止る故。此名あり

回一里シホツまで。海路凡一里半。云無事。數武里。シホツ

周二里程。夕シホツまで凡一里。猶又シホツより半里程隔つて。ハルカルモシリと云嶋有。回六十間程あり。夷語シベオチ。シベ冬。鮭。オチを居ると云事ふて。此島小鮭此有故。此名ありといふ

クラクイ

周回一里程。シコタンまで海路八里程。猶又クラクイより三四間程隔て。シヤモシリと云岩嶋あり。回三間程。又一里半程隔て南の方へ。エタシヘイシヨと云嶋あり。曲四十間程。夷語マクイなるべし。則活滑なるといふ事ふて。此島至てなめらるあり。故此名有

シコタン
周田十七里。當島シヤマタル此千里モシリト云所
番屋あり。辨才舟掛り澗あり。當嶋より根室まで。海路
三十五里程。方角申酉に向ふ。夷言シモ至て甚々杯と
云事。コタンを村所杯と云事。至る所と譯也。

國後嶋

當島の總名よて周田百二十里程。夷語キナシリなる
事なり。草の總稱シリモシリ此略言よて。嶋の
事なり。國後島の内
一里餘又ミハツムハ半里

泊所。ロイまで十里程。此處よりニキニヨロまで。舟
押送りふ付休所なり。夷語アツイヤなり。アツイを海
ヤを岡と云事。渡海場と譯也。此處より擇捉地内
タンネモイまで。海路七里程

擇捉嶋

當島の總名よて。周田二百餘里。夷語エトロを鼻水。ブ
を所といふ事。此所人此鼻水をたらして居る
形狀此大石有故。此名ありといふ
タンネモイ擇捉島の内

番屋泊所。イボ迄。海路十三里程。夷語タンネモイ長い。

モイ冬入輪と云事。此所長き入輪此有る故。此
名有。當所より國後のアトイヤへ。海路七里程

振別 同上

會所有泊處。辨財舟掛り。澗有。シヤナまで。十里程。夷語
フウレ、ツなり。フウレ冬赤い。ベツを川。此川の水
赤き故。此名有

紗那

元會所當時番屋。ベトブ迄十二里程。此所和解未詳。當
所よりベトブへ。山越道。行程六里程。マベト
藥取

番屋泊所アトイヤまで。十二里程。夷語シベツヲロの
轉訛なり。シを至る。ベツ冬川。プロを在る所といふ事
よて。此所大川。此有故。此名有。蝦夷地名解

